

小西健二先生を偲んで

長年、本紀要の編集委員長を務めてくださいました小西健二先生が、2024年10月25日に95歳で御逝去されました。小西先生は東京大学理学部の小林貞一教授の元で学び、進級論文では、他の門下生と一緒に来馬層群を調査し、修士では岡山県新見市に分布する山奥層を命名し、西南日本内帯の中生界下部ジュラ系であることを明らかにしました。博士課程卒業後は、アメリカ・コロラド州の米国地質調査所で化石石灰藻を研究されました。1960年2月に東京大学理学部助手に採用され、同年4月から金沢大学理学部講師、1964年4月に助教授、1968年7月から教授に昇任され、多くの門下生を育て上げられました。

小西先生の研究業績は数多ありますが、特に琉球列島などの隆起サンゴ礁の絶対年代を決定し、各島の詳細な隆起速度を明らかにされました。喜界島では最終間氷期以降の海面高位期の変動から氷期一週氷期サイクルを議論されました。また、同位体古生物学という分野を先駆的に進められ、イシサンゴの骨格年代学という分野を確立されました。

福井県立恐竜博物館紀要は外部委員による編集委員会を設置し、査読結果を元にした掲載可否の判断をはじめ、様々な問題を扱ってきました。当館開館の翌年度である2001年度（出版年は2002年）に紀要1号を発行し、以来今日まで毎号欠かさず、年1回の出版を続けています。その中で、小西先生におかれましては、1号の準備段階から17号までの18年間に亘り編集委員長を務めていただき、多くの御指導御鞭撻を賜り、紀要の礎からその後の発展までの長い道のりを導いてくださいました。

当館紀要には海外研究者からの投稿もあり、某国から送られた英文投稿原稿に対して英文校正をはじめ、多くのコメントを付して著者に返送したことがあります。ところが、しばらく後に、当方のコメントを活かす形で別雑誌に掲載されていることがありました。当方の熱意と努力を利用したあるまじき行為に編集委員会は怒り、著者に猛抗議したことがあります。しかし、そういう際でも、先生は委員長名で品位ある丁寧な英文で手紙を認めてくださったものです。我々編集幹事と共に、長きにわたって真正面から紀要編集に取り組んでくださった小西先生なくして現在の紀要はありません。これからも小西先生の真摯な姿勢を糧に紀要編集に取り組んで参る所存です。

小西健二先生の御霊前に深く感謝するとともに、心より御冥福をお祈りいたします。安らかにお眠りください。

福井県立恐竜博物館
副館長（研究） 一島啓人
研究・展示課長 寺田和雄